Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University
2012, Vol.22, 65-74

論 文

高校生におけるきょうだい構成とパートナー選択の関わり
―家庭科に題材「恋愛」を位置づけるために―

山　中　陽　子〔鹿児島県立加治木工業高校〕・齋　藤　美保子〔鹿児島大学教育学部（家政教育）〕

Connection between sibling structure and partner selection in high school students
－ To locate "love" in the home economics －

YAMANAKA Yoko・SAITO Mihoko

キーワード：きょうだい構成、パートナー、高校生、家庭科

1．はじめに

近年著しく少子化が進行しており，その進行の背景には，若年者の非正規雇用の増加・未婚率の増加などがある。さらに、経済社会の変化が挙げられる他、男女の結婚・子育てに関する意識の変化など，様々なものが関係している。中でも，次世代の家庭生活を担う高校生の，恋愛・結婚や子育てに対する意識やライフスタイルの変化から，今後の家庭生活の在り方が変化していき，少子化の進行の変化も考えられる。高校生は，親になる準備段階であると共に，男女の関わりを意識する段階である。恋愛行動―すなわち，自分自身を見つめ，特定の相手を深く知り，他者とのかかわりの中で，互いが人間的に成長する重要な意味を持っている。こうした意味では，家庭科教育の中の家族・家庭生活をはじめ，保育領域など人間にかかわる分野において，男女共同参画社会をめざした男女の関わりについての学習内容や方法を再編成する必要があると思われる。

恋愛における価値観や行動は周囲の環境によって変化すると考えられる。その中でも，個人に最も身近なきょうだいは，恋愛を取り巻く環境として重要な存在であると考える。人間関係の様々な立ち位置を経験し，人の個性や多様な考え方を受け入れ，人間関係を学ぶ上でも重要な存在である，きょうだい関係に着目した。きょうだい関係は，特に家庭の中で同年代の異性とかかわる最初の存在であるがゆえに，その後の男女観にも影響を及ぼすものと考えられる。私たちが生活する中で，親とは違う，新たなつながりを経験し，家庭の中で年齢が近い存在がゆえに，互いに影響し合っていると言える。

そこで，本研究では従来家庭科教育で「恋愛」をあまり重視してこなかった（あるいは重視されなかった―子どもを産み育てる　という文脈が重視されていた）反省から，この「恋愛」に重点を置きながら，きょうだいとのかかわりの授業開発のあり方を検討する基礎資料とする。調査目的は，高校生の男女関係についてどのような意識を持ち，パートナー選択ときょうだいとの関わりについて分析・考察を行うことを目的とする。ここでパートナーとは，異性交際の相手方，配偶者ならびにそれに準ずる人とし，具体的には「恋人」「結婚相手」とする。

2．先行研究レビュー

先行研究のレビューについては，少ないきょうだい関係の研究から代表として(1)から(3)に分け，それぞれの課題について述べる。また，本研究は，「家庭総合」の教科書の分析を行った（旧学習指導要領版教科書）が，ここでは深く論じていない。

(1) きょうだいの性格と影響

三人きょうだいを調査対象とした，長子的性格・中間子的性格・末子的性格についての知見によると（浜崎ら，1985: 187-196），長子的性格は「自分の用事を　平気で人に押しつけたり頼んだりする」で，中間子的性格は「気に入らないと，すぐに黙りこむ」，末子的性格は「お母さんにいつも甘ったれている」という。また，MPPIの性度尺度を参考にした性度検査も行われ，これによ

ると，姉妹にかこまれた男子の女性度は，他の位置にある男子よりも高い傾向にあるということが明らかにされている(浜崎ら，1985: 187-196)。しかし，兄弟にかこまれた女子の女性度も高い傾向にあり，これは、異性に囲まれて育っても，男子と女子では親の役割期待が異なっていることを示している。

このように，きょうだいの出生順位や異性のきょうだいの存在によって，個人の性格特性に違いがあることが明らかにされている。

(2) 高校生の結婚観について

現代の高校生の結婚願望は、男女による有意差がなく，89.3％が将来「結婚する」と回答している（三谷ら，2006:39-43)。また，男女とも８割以上の人が育児の分担に肯定的であること，女性が仕事をすることに対する男女の考え方の違いなどが明らかにされている（三谷ら，2006:39-43)。「男は仕事，女は家事・育児」などの性別役割分業については女子の方が否定的であり，男子は女子の結婚後の就業について，女子の自己決定にゆだねる姿勢がうかがえる。また，高校生の女子にとって，結婚，妊娠や分娩，出産に自己実現を求めるような時代ではない結果が出ている（齋藤，1996:23-31)。

これらから，高校生は「結婚」を自分のこととして考え始める時期であり，結婚への意識が高いことが分かる。しかし，結婚する以前に，どのような恋愛ができているかが重要である。「どのような恋愛」とは，支配関係なのか（今日のデートDVのような様相）それとも両方が良く話し合える関係なのかどうか，―つまり平等なのかである。そこで家庭科教育関連の先行研究・実践を次章で述べる。

(3) 家庭科教育の先行実践

このような「恋愛」に着目したのが，綿引らの「人間の誕生から死までを考えるカリキュラムと指導案の検討」である。これは，題材１「個性を磨く」、題材２「異性とのつきあい」，題材３「自立して生きる―労働・職業―」，題材４「共に生きる」という流れで行われた。学習内容は，自分自身の個性や性格について今日までの成長を振り返り，人間の発達の特徴を理解させる。そこから，人は誰でも個性を持っていることを理解させ，異性のかかわりへとつなげていく。その中で特徴的であるのは，「男らしさ・女らしさ」についての授業である。人の個性は「男女」という性によって決められるものではないこと，「自分らしさ」が大切であることを中心とした授業展開がなされている。この実践後，男女の性に関しての考え方の変容を調査し，授業実践について検討している。

この調査結果から，性差別に抗する意識をもつ高校生が増加し，「男女平等」への関心，自分自身のことや異性についての関心など，男女観に大きな影響を与えたことが示唆された。

以上の先行研究・先行実践から，「きょうだい」と個人の性格特性に関する先行研究はあるが，きょうだいと恋愛とのかかわりの研究はまだされていない。したがって，きょうだいと恋愛・結婚観―パートナー選択との関係についての研究を進める意義がある。また，本研究は恋愛は男女間だけでなく，同性の関係をも含んでいることを明記する。

(4) 高等学校家庭科教科書「家庭総合」から

７社８冊の高等学校家庭科「家庭総合」教科書を「恋愛」「家庭生活」「男女平等」「性」「結婚」のキーワードを文章中の個数(頻度数)の集計を行った。この結果，総数618個が得られた。このうち，「性」が267（43％)，「家庭生活」が150（24％)，「男女平等」が98（16％)，「結婚」が87（14％)，「恋愛」が16（３％）と最も低かった。つまり，結婚の前段階である「恋愛」という男女のかかわり方についての記述が少ないことである。他に明らかになったことは，現代の家庭科教科書の特徴として，「家庭生活」の単元に必ず「男女平等」に関する記述があることであった。

３．研究の方法

調査目的は，先に述べたように，高校生の男女関係についてどのような意識を持ち，パートナー選択ときょうだいとの関わりについて明らかに

し，分析・考察を行うことを目的とする。

① 調査期間及び研究対象

2009年11月中旬から12月上旬にかけて、鹿児島県の公立高等学校に通う高校生男女を対象に、意識調査を行った。公立高校を対象にした理由は，県下から多様な地域から通うため（学区はあるが）サンプルも均一がとれているためである。

② 内容に関する項目

内容に関する項目は以下の通りである（表-１）。

表-１　質問項目

(1) 属性
①現在の自分のきょうだい構成について
②好きな人の有無
(2) 自分の恋愛を支えている存在について
(3) 恋人・結婚相手のきょうだい構成への意識について
(4) 自分のきょうだいとの関わりについて
(5) 自分の恋愛ときょうだいの関わりについて

③ 分析方法

集団質問紙法を行い、対象学校経由にて配布後、回収を行った。単純集計をエクセルで行った。殆どが複数のきょうだいを持っており，ここを中心に分析・考察する。また，ジェンダーの視点から分析・考察を行った。なお，本研究では男女複合のきょうだいの場合を想定し，この表記を「きょうだい」，男性のみのきょうだいを「兄弟」，女性のみのきょうだいを「姉妹」とした。また，本研究は紙面の都合から，対象者の出生順位と出生順位の長子・中間子・末っ子からの分析はしていない。

４．結果と考察

(1) 属性について

意識調査の対象者は，鹿児島県の公立高等学校に通う高校２年生34名と３年生71名で，計105名である。そのうち，男子35名（33％），女子70名（67％）であった。男女の人数の差は家庭科選択科目の人数であったためである。

① 現在の自分のきょうだい構成について

きょうだい構成について，「きょうだい数」，「自分の出生順位」，「他のきょうだいの性別と出生順位」，「年の差」についてそれぞれ回答を求めた。

ア．きょうだい構成

きょうだい構成を，「ひとりっこ」又は「複数きょうだい」かについて求めると，「ひとりっこ」が４名（４％），「複数きょうだい」が101名（96％）であった。同性のきょうだいしかもたない生徒と，異性のきょうだいをもつ生徒との割合を求めると，「同性のみ」は32名（32％），「異性あり」は69名（68％）であった。また，平均きょうだい数は2.96人であった。これは，都道府県別きょうだい数は鹿児島県が全国で４番目に高いことからして，今回の調査もそれを裏付けている。

イ．きょうだいの仲のよさ

きょうだいがいる生徒のみに，「あなたのきょうだいは，仲が良いと思いますか」という質問項目を設け，回答を求めた。この結果，「かなりそう思う」と「まあそう思う」の合計から，約90％が仲の良いきょうだいであることが判明した。

② 好きな人の有無

ア．好きな人がいる割合

「現在，あなたは好きな人がいますか」という質問に対して「はい」「いいえ」の２つの選択肢を設け回答を求めた。「はい」と回答した生徒は63名（60％），「いいえ」と回答した生徒は42名（40％）であった。

以下、現在好きな人が「いる」「いない」，現在の好きな人が「恋人（つき合っている人）」だと回答した生徒というように３つに分け，「現在の好きな人と結婚したいと思いますか」「現在の相手でなくても、いつか結婚したいという思いはありますか」という質問項目に対して「はい」「いいえ」の２つの選択肢を設け、回答を求めた。

イ．結婚願望について

・現在の好きな人との結婚願望について

「現在の好きな人と結婚したいと思いますか」という質問項目に対して「はい」「いいえ」の２つの選択肢を設け、回答を求めた。「はい」と回答した生徒は39名（65%），「いいえ」と回答した生徒は21名（35%）であった。男子で「はい」と回答した生徒は15名（79%），「いいえ」と回答した生徒は４名（21%）であった。女子で「はい」と回答した生徒は24名（59%），「いいえ」と回答した生徒は17名（41%）であった。

・一般的な結婚願望について

「現在の相手でなくても，いつか結婚したいという思いはありますか」という質問項目に対して「はい」「いいえ」の２つの選択肢を設け回答を求めた。「はい」と回答した生徒は52名（84%），「いいえ」と回答した生徒は10名（16%）であった。

現在好きな人がいる男子の中で「はい」と回答した男子生徒は15名（75%），「いいえ」と回答した生徒は５名（25%）であった。現在好きな人がいる女子の中で「はい」と回答した女子生徒は37名（88%），「いいえ」と回答した生徒は５名（12%）であった。

以上をまとめると表-２のようになった。

この結果から，現在「好きな人がいる」場合は一般的な結婚願望が高く(84%)，「いない人」は一般的な結婚願望はそれより低い(約60%)ことがわかった。

(2) 自分の恋愛を支えている存在について

① 相談相手

「あなたは、恋愛について誰(何)に相談・頼りますか（複数可)」という質問項目に対して「友人」「きょうだい」「親」「占い」「誰にも頼らない」「その他」の６つの選択肢を設け，回答を求めた。

多い順に，「友人」と回答した生徒は91名（57%），「誰にも頼らない」と回答した生徒は26名（16%），「きょうだい」と回答した生徒は15名（９%）、「親」と回答した生徒は14名（９%），「占い」と回答した生徒は11名（７%），「その他」と回答した生徒は４名（２%）であった。「その他」は「先輩」という回答だった。

この結果，相談相手をきょうだいではなく「友人」とするには，お互いの親密度と共感が得られるという理由が考えられる。そして，相談相手のパートナーも「友人」は良く知っており，アドバイスしやすいとの理由ではないかと考えられる。

表-２　好きな人の有無と結婚願望

	好きな人の有無　（人数）									
	有　63　(60%)							無 42　(40%)		
		恋人(付き合っている)		現在の人との結婚願望 NA=3(女子２　男子１)		一般的な結婚願望 NA=1(女子)			一般的な結婚願望 NA=1(女子)	
		はい	いいえ	有	無	有	無		有	無
女	43	25 (58.1%)	18 (41.9%)	24 (59%)	17 (41%)	37 (88%)	5 (12%)	27	16 (59.3%)	10 (37%)
男	20	13 (65%)	7 (35%)	15 (79%)	4 (21%)	15 (75%)	5 (25%)	15	9 (60%)	6 (40%)
合計	63	38 (60.3%)	25 (39.7%)	39 (65%)	21 (35%)	52 (84%)	10 (16%)	42	25 (59.5%)	16 (38.1%)

次にパートナー選択として，恋人と結婚相手別にきょうだい構成の意識について記す。ここではパートナーとは，相手方，配偶者ならびにそれに準ずる人とし，調査として具体的には「恋人」「結婚相手」とする。

② パートナーのきょうだい構成への意識

ア．恋人のきょうだい構成への意識について（NA=２）

「あなたの恋人や結婚相手は、きょうだいの何番目が良いと思いますか」という質問項目に対して「恋人」「結婚相手」のそれぞれについて，「長子」「複数きょうだいの真ん中」「末っ子」「ひとりっこ」「特になし」の５つの選択肢を設け，回答を求めた。

まず、「恋人」については，「長子」と回答した生徒は11名（11％），「複数きょうだいの真ん中」と回答した生徒は14名（14％），「末っ子」と回答した生徒は５名（５％），「ひとりっこ」と回答した生徒は１名（１％），「特になし」と回答した生徒は72名（69％）であった（図-１）。

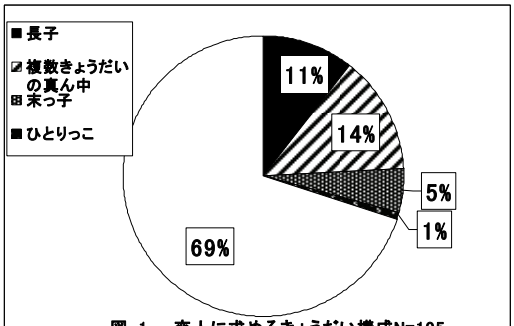

図-1　恋人に求めるきょうだい構成N=105

イ．結婚相手に求めるきょうだい構成（NA=４）

次に、「結婚相手」については，「長子」と回答した生徒は12名（12%），「複数きょうだいの真ん中」と回答した生徒は19名（19％），「末っ子」と回答した生徒は５名（５％），「ひとりっこ」と回答した生徒は１名（１％），「特になし」と回答した生徒は64名（63％）であった（図-２）。

これらから，恋人と結婚相手に求めるきょうだい構成に若干の違いが見られた。それは，恋人に求めるきょうだい構成のうち，「特になし」

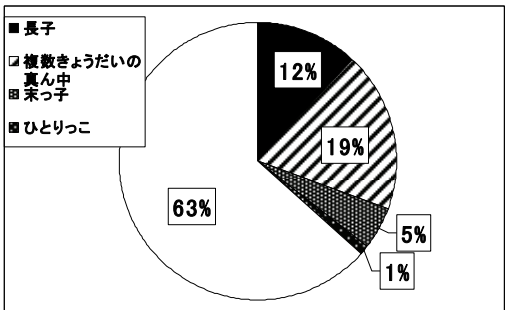

図-2　結婚相手に求めるきょうだい構成N=105

が69％にたいして，結婚相手に求めるものが63％に減り，「きょうだいの真ん中」が14％から19％に増えたことである。付き合っているうちは気にならない事が，いざ結婚相手となれば人間関係を考慮しなければならない，と変化するものと捉えることができる。

③ きょうだい構成に対するジェンダー差について（NA=４）

ア．恋人に求めるきょうだい構成

理想とする恋人と結婚相手のきょうだい構成について，男女で意識の違いが見られた。

まず，恋人に求めるきょうだい構成について，男子は，「長子」と回答した生徒は３名（９％），「複数きょうだいの真ん中」は３名（９％），「末っ子」は２名（６％）、「ひとりっこ」は１名（３％），「特になし」は25名（73％）であった（図-３内側）。女子は，「長子」と回答した生徒は８名（12%），「複数きょうだいの真ん中」は11名（16％），「末っ子」は３名（４％），「ひとりっこ」は０名，「特になし」は45名（68%）であった（図-３外側）。

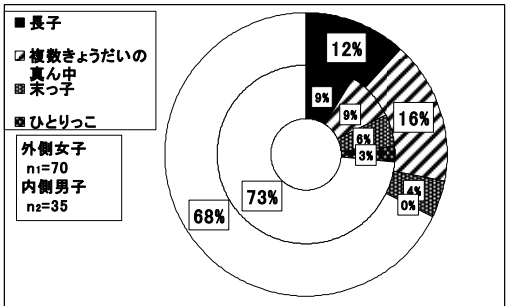

図-3　恋人に求めるきょうだい構成

イ．結婚相手に求めるきょうだい構成

次に，結婚相手に求めるきょうだい構成について見てみた。男子は，「長子」と回答した生徒は３名（９％），「複数きょうだいの真ん中」は４名（12％），「末っ子」は２名（６％），「ひとりっこ」は０名，「特になし」は25名（73％）であった（図-４内側）。女子は，「長子」と回答した生徒は９名（13％），「複数きょうだいの真ん中」は15名（23％），「末っ子」は３名（４％），「ひとりっこ」は１名（１％），「特になし」は39名（59％）であった（図-４外側）。

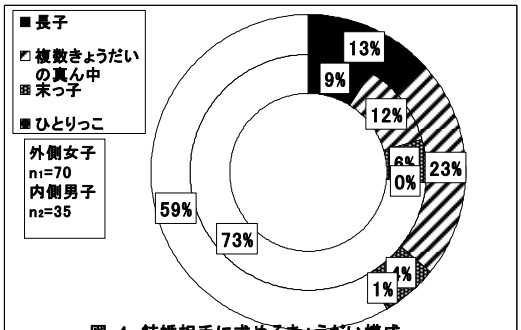

図-4　結婚相手に求めるきょうだい構成

以上から考察すると，男子は恋人と結婚相手に求めるきょうだい構成はほぼ変わらない。しかし，女子の場合，恋人のきょうだい構成は特にこだわらないことが多いが，結婚相手に求めるきょうだい構成は，「複数きょうだいの真ん中」が多くなる。このことは、同居や嫁姑関係の軋轢などを考慮しているものと思われる。また，依然「長子」を希望する女子もいることから，経済的安定や子どもの世話など家族の援助などを必要としていることも考えられる。次に，高校生が考えているきょうだい構成の理由についてみてみることにする。

④　パートナーに求めるきょうだい構成の理由

ア．恋人に求めるきょうだい構成の理由

理想とする，恋人・結婚相手のきょうだい構成について，その理由として「しっかり者である」「相手の両親のことを気にしなくてよい」「甘え上手である」「相手の他のきょうだいを気にしなくてよい」「相手のきょうだい構成は気にしない」「その他」の６つの選択肢を設け，回答を求めた。

まず「恋人」については，「しっかり者である」と回答した生徒は17名（17％），「相手の両親のことを気にしなくてよい」は２名（２％），「甘え上手である」は５名（５％），「相手の他のきょうだいを気にしなくてよい」は13名（13％），「相手のきょうだい構成は気にしない」は54名（56％），「その他」は７名（７％）であった（図-５）。

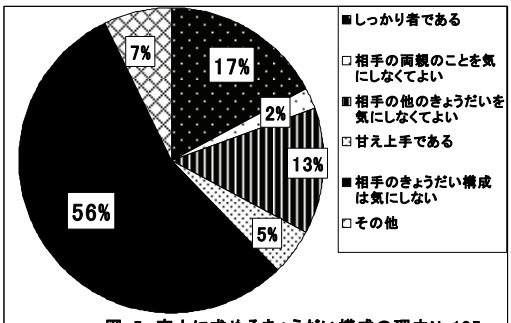

図-5　恋人に求めるきょうだい構成の理由N=105

イ．結婚相手に求めるきょうだい構成の理由

次に「結婚相手」については，「しっかり者である」と回答した生徒は16名（17％），「相手の両親のことを気にしなくてよい」は９名（10％），「甘え上手である」は３名（３％），「相手の他のきょうだいを気にしなくてよい」は７名（８％），「相手のきょうだい構成は気にしない」は50名（53％），「その他」は８名（９％）であった（図-６）。

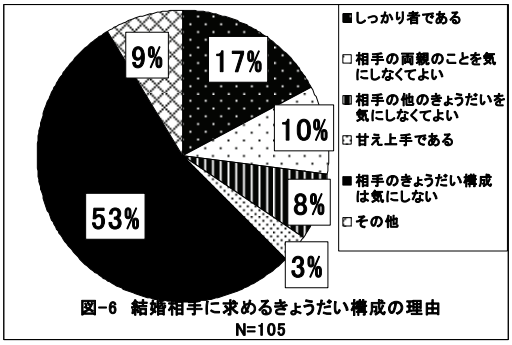

図-6　結婚相手に求めるきょうだい構成の理由
N=105

この２つの結果から，恋人に求めるきょうだい構成理由と結婚相手に求めるきょうだい構成の理由で異なるのは，「相手の両親のことを気にしなくてよい」が結婚相手に求める理由が高

くなり（２％から10％へ），逆に減るものとして，「相手の他のきょうだいを気にしなくてよい」があげられる。つまり，家族関係についての意識が異なるということである。恋愛においては，相手の家族についての意識が低いが，結婚においては，相手の家族も意識する傾向にあることがわかった。また，この傾向は女子の方が大きい。これは，結婚すれば制度上，もとの家族からの独立ではあるが，「同居」を考慮することや嫁姑関係，子どもの世話などまだまだ女子にとって独立しがたい状況が家族間にはあ，その意識が背景にあるものと思われる。

(3) きょうだいが影響していると思うもの

「あなたが，きょうだいから特に影響を受けている（受ける）と思うことは何ですか（２つ選択)」という質問項目に対して，８つの選択肢を設け、回答を求めた。

多い順に，「趣味」50名（47.6％），「遊びに行く場所」30名（28.6％），「食べ物の好み」27名（14.3％），「進路」22名（21.1％），「習い事」20名（19％），「その他」19名（18.1％），「異性の性格の好み」６名（5.7％），「異性の見た目の好み」３名（2.9％）であった。「その他」のうち10名が，「影響は受けていない」と回答している。

この結果からは，異性の好みや異性の性格の好みは影響している場合は少ないといえる。

次にこのような背景のもと，恋愛ときょうだいの関わりについて，恋愛のきょうだいの影響とその理由，きょうだい同士の対応について，その結果と考察をする。

(4) 自分の恋愛へのきょうだいの影響

「あなたの恋愛について，きょうだいは影響していると思われますか」という質問項目に対して，「かなりそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」という３つの選択肢を設け，回答を求めた。

「かなりそう思う」と回答した生徒は１名（１％），「まあそう思う」と回答した生徒は13名（13％），「あまりそう思わない」と回答した生徒は89名（86％）であった。

この結果から，自分の恋愛へのきょうだいの影響はあまりないということである。

(5) 自分の恋愛へのきょうだいの影響の理由

自分の恋愛において，きょうだいの影響の有無の理由を「恋愛の考え方はそれぞれ違うと思う」「きょうだいでは考え方・好みが似ると思う」「きょうだいと考え方・好みが同じになるのは嫌い」「その他」という4つの選択肢を設け、回答を求めた。

その結果，約８割が「恋愛の考え方はそれぞれ違うと思う」が79名（79％），「きょうだいでは考え方・好みが似ると思う」が11名（11％），「きょうだいと考え方・好みが同じになるのは嫌い」が４名（４％），「その他」は６名（６％）であった(図-７)。

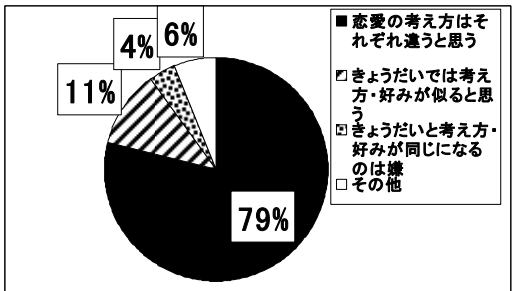

図-7 自分の恋愛へのきょうだいの影響の理由N=105

この結果から，「恋愛の考え方はそれぞれ違うと思う」が多く，「きょうだいと考え方・好みが同じになるのは嫌い」が８名（７％）を入れると，約８割が恋愛にかんしてはきょうだいから自立している意識を持っていると思われる。

(2) きょうだいの性別構成によってパートナーに求めるものが異なるか

(1)では、恋人・結婚相手におけるきょうだいの影響は直接には関係がなく，むしろ意識してきょうだいの性とは異なるパートナー選択であった。ここでは，自分のきょうだいに異性のきょうだいがいる場合と，同性のきょうだいのみの場合に分けて回答を求め、考察をする。

①　異性のきょうだいがいる場合（N=69）

恋人や結婚相手に求めるものとして，「きょうだいと見た目が似ている」「きょうだいと性格が似ている」「きょうだいと似ている人は嫌だと思う」「その他」の４つの選択肢を設け，回答を求めた。

「きょうだいと似ている人は嫌だと思う」と回答した生徒は35名（51％），「きょうだいと性格が似ている」と回答した生徒は12名（17％），「きょうだいと見た目が似ている」と回答した生徒は6名（９％），「その他」と回答した生徒は16名（23％）であった（図-８）。「その他」には，「気にしない」「影響していない」という回答が多かった(図-８)。

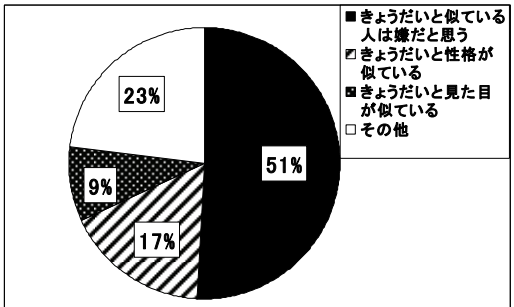

図-8　理由(異性のきょうだい)N=69

②　同性のきょうだいがいる場合（N=32）

恋人や結婚相手に求めるものについて，「きょうだいと同じような見た目のタイプを好む」「きょうだいと同じような性格のタイプを好む」「きょうだいとは別のタイプを好む」「その他」の４つの選択肢を設け、回答を求めた。

「きょうだいとは別のタイプを好む」と回答した生徒は23名（72％），「きょうだいと同じような性格のタイプを好む」と回答した生徒は２名（６％），「きょうだいと同じような見た目のタイプを好む」と回答した生徒は０名（０％），「その他」と回答した生徒は７名（22％）であった（図-９）。「その他」には，「気にしない」「きょうだいの好みが分からない」という回答が多かった。

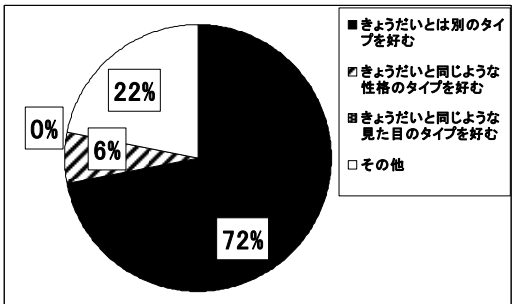

図-9　理由(同性のきょうだい)N=32

この結果から，異性のきょうだいがいる場合と同性のきょうだいがいる場合の共通点は、「似ている人は嫌い」「別のタイプの人」ではあるが，異性のきょうだいの場合は，「性格が似ている」「見た目が似ている」ときょうだいを身近なモデルとしている様子が伺えられる。それに対して，同性のきょうだいの場合は意識的に「別のタイプ」を選択し，性格も見た目のタイプも相手を選択しないことが分かる。

さらに、同性のきょうだいを男女によってグループわけしてみた（表-３）。兄弟の場合と姉妹の場合の意識の差については，ほぼ変わらなかった。若干兄弟の場合が「きょうだいと同じ性格のタイプ」が２名いるだけである。また，「その他」も「分からない」「特になし」という回答であった。

表-３　同性のきょうだい（ジェンダー差）

人数(32)	きょうだいと同じような見た目のタイプを好む	きょうだいと同じような性格のタイプを好む	きょうだいとは別のタイプを好む	その他
兄弟 16	0	2	12	2
姉妹 16	0	0	11	4

(3) きょうだいの恋愛に対する自分の対応

自分自身は、きょうだいの恋愛にどのように関わろうとしているかについて，「あなたは，きょうだいが恋愛の話をしてきた時どのように応援したいと考えますか（複数可)」という質問項目に６つの選択肢を設け，回答を求めた。

多い順に，「悩みの相談・アドバイスをする」と回答した生徒は55名（40％），「特に何もしない」は39名（28％），「一緒にプレゼント選びなどをする」は30名（22％），「見た目に対してのアド

バイスをする」は10名（７％），「一緒に占いなどに行く」「相手と直接話をして間をとりもつ」はそれぞれ２名（２％）であった（図-10）。

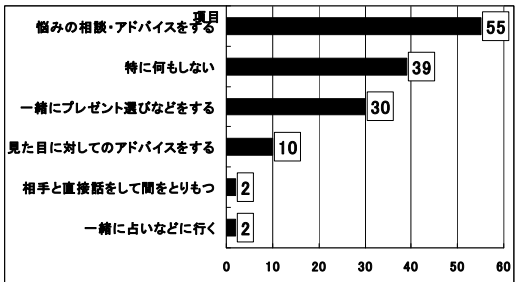

図-10 きょうだいの恋愛に対する自分の対応(複数回答)N=105

きょうだいの仲が良くても，恋愛については関わろうとしていない生徒が約３割いることがわかった。しかし，約６割の生徒は，自分のきょうだいの恋愛を何らかのかたちで応援しようとしており，身近な存在として力になろうという意識を持っていることがわかった。

(4) 恋愛に対するきょうだいの対応

「あなたが恋愛に夢中になり，かりに勉強などに支障をきたした場合，きょうだいは叱ると思いますか」という質問項目に対して，４つの選択肢を設け，回答を求めた。

「叱らない」は46名（44%），「叱る」と回答した生徒は15名（15％），「叱ってほしい」は12名（12%），「ただ無言で見てほしい」は30名(29%)であった（図-11）。

この結果から，自分の恋愛に干渉してほしくないと思っている生徒が約３割であり，きょうだいは恋愛について干渉してこないと思っている生徒が約５割であることがわかった。

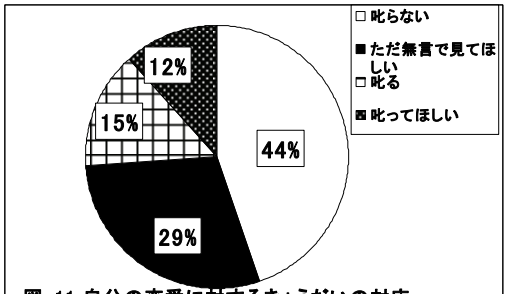

図-11 自分の恋愛に対するきょうだいの対応 N=103

5．まとめと考察

【高校生の理想のきょうだい構成について】

理想とするきょうだい構成で、きょうだいに異性がいた方が良いと思っている生徒は87%、同性のみのきょうだいが良いと思っている生徒は13%であり，異性のきょうだいの存在を重要視している生徒が多いことがわかった。

【現在の高校生の恋愛行動について】

現在，恋愛に興味を持っているか，また，恋愛行動をしているかを把握するため，まず，「現在、あなたは好きな人がいますか」という質問項目を設けた。これに対し，「いる」と回答した生徒は60%，「いない」と回答した生徒は40%であり，約６割の生徒が恋愛をしていることがわかった。特定の相手に対して，「好きな人」という恋愛意識をもつことができている生徒が６割であり，好きな人がいない生徒でも，「恋愛」や「異性」に興味を持っていないわけではないことがわかった。

【恋愛を支えている存在について】

自分の恋愛について，相談したり頼ったりする存在を問い，「友人」が最も多い91名であった。「きょうだい」と回答した生徒19名のうち，５名が同性のみのきょうだい構成で，10名は異性がいるきょうだい構成の生徒だった。男女別に見てみると，「友人」と回答した生徒は男子が25名，女子が66名，「きょうだい」と回答した生徒は男子が2名，女子が13名，「親」と回答した生徒は男子が1名，女子が13名だった。「占い」については，男子が４名，女子が７名であった。「誰にも頼らない」は，男子が14名、女子が12名であり，男子の約4割が「恋愛については誰にも頼らない」ということがわかった。また，好きな人や恋人が「いる」生徒，好きな人や恋人が「いない」生徒では，恋愛を支えている存在にあまり違いは見られなかった。

【きょうだいとの関わりについて】

(1) 高校生の恋愛においての「きょうだい」

きょうだいとの会話の内容で「テレビ」「友人」「部活」が多いことから，日常のことを話す場合が多いことがわかった。「部活」に次いで「将来・夢」が多く，きょうだいと自分の将来に

ついて語ることのできている生徒は20名であった。また，「恋愛」の話をする生徒は16名おり，そのうち，６名が「異性の見た目の好み」「異性の性格の好み」がきょうだいの影響を受けていると回答している。きょうだいが影響していると思うものについては，「趣味」が最も多く，次いで，「遊びに行く場所」「食べ物の好み」であった。恋愛について，「異性の見た目の好み」「異性の性格の好み」という回答は少なかった。また，自分の恋愛にきょうだいが影響していると思わない，という回答が86％であり，きょうだいの存在と自分の恋愛は関係していないと考える生徒が多かった。その理由として，「恋愛の考え方は人それぞれ違うと思う」が72％であった。しかし，自分のきょうだいと，恋人・結婚相手に求めるものに関する問いでは，「(異性の）きょうだいと似ている人は嫌だと思う」が48％，「(異性の）きょうだいと性格が似ている」が18％，「(同性の）きょうだいとは別のタイプを好む」が59％，「(同性の）きょうだいと同じような性格のタイプを好む」が15％であることから，「きょうだい」の存在が，自分の恋愛にとって１つのモデルになっていると言える。また，「あなたが恋愛に夢中になり，かりに勉強などに支障をきたした場合，きょうだいは叱ると思いますか」という質問項目について，「叱る」「叱ってほしい」と回答した生徒は合わせて26％，「叱らない」は45％，「ただ無言で見てほしい」は29％であることから，自分の恋愛に干渉してほしくないと思っている生徒が約３割であり，きょうだいは恋愛について干渉してこないと思っている生徒が約５割であることがわかった。

本研究の今後の課題として，他県の高校生や、大学生との意識を比較する必要があると言える。鹿児島県は，全国でもきょうだい数が多いという地域特性が見られるため，少子化が著しく進行している都心部の高校生と比較することで，複数きょうだいの生徒とひとりっこの生徒の恋愛・結婚観の違いが顕著に表れるのではないかと考える。また，高校を卒業し，さらに結婚を意識し始める大学生と高校生の意識を比較することで，恋愛・結婚観に影響するその他の環境についても，明らかにできると考える。

また，家庭科の「家庭生活」の単元で，異性や恋愛についての授業展開を検討し，実践する必要がある。

〈引用文献〉

1）赤澤淳子　2006　「青年期後期における恋愛行動の規定因について」　仁愛大学研究紀要　第5号　pp. 17-31

2）深谷昌志　2004　「高校生は変わったのか(2)―1980年・1992年調査と比較して―」

3）深谷昌志監修、モノグラフVOL. 70『第４章　高校生の描く家庭像』、ベネッセ未来教育センター　pp. 33-44

4）深谷昌志監修　2004　高校生の「つきあい」事情　深谷昌志　8 高校生の描く家庭像　ベネッセ未来教育センター　モノグラフVOL. 72　pp. 21-24

5）浜崎信行・依田明　「出生順位と性格―３人きょうだいの場合―」1985　横浜国立大学紀要　25　pp. 187-196

6）飯田哲也　1996(平成8)「現代 日本家族論」学文社

7）齋藤美保子　1996 少子化をめぐる高校生の結婚観と子ども観 月刊家庭科教育 家政教育社　pp. 23-31

8）三谷明美・赤井由紀子　2006　高校生の結婚観と母性意識に関する研究」山口県立大学看護学部紀要　第10号　pp. 39-43

9）S・コウチ（牧野カツコ 編・訳）　2002(平成14年)　スキルズ・フォア・ライフ　家政教育社

10）綿引伴子・牧野カツコ・鶴田敦子・福留美奈子　1994　人間の誕生から死までを考える カリキュラムと指導案の検討(1)～(3)　月刊家庭科教育　家政教育社　pp. 41-52 pp. 36-42　pp. 27-32

〈白書〉

・内閣府　平成22年版　「子ども・子育て白書」

・内閣府　平成22年版　「子ども・若者白書」